

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 5 月 20 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田中 美帆

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県串間市 幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
幸島実習/野生動物・行動生態野外実習 「幸島のニホンザルにおける低順位メスと高順位メスの行動パターンの比較」
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 5 月 5 日 ~ 平成 28 年 5 月 11 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所 鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、宮崎県串間市にある京大野生動物センターの幸島観察所および幸島に滞在し、野生ニホンザルの行動観察を行った。今回の実習の目的は、野生動物の行動観察はもちろん、フィールドにおける様々な申請書の書き方、フィールド調査を行うための準備、実地経験、それに伴う知識を得ることにあつたと思う。
実習日程 5月4日(移動)フェリーにて大阪南港から鹿児島県志布志港へ 5日(準備)志布志港から宮崎県串間市へと移動、幸島観察所にて準備など 6日-8日(フィールドワーク)幸島にてニホンザルの行動観察 9日(フィールドワーク)都井岬にてウマの行動観察 10日(発表)データ解析、発表会 11日(片付け)観察所掃除、フェリーにて志布志港から南港へ 12日(移動)大阪南港着、帰京
今回、私は「幸島のニホンザルにおける低順位メスと高順位メスの行動パターンの比較」と題し、1日1個体を追い回す個体追跡法を用いてデータを得た。低順位個体と高順位個体では、時間の使い方、幸島では餌をまいているので特に採餌に割く時間の割合が減少することを予想してこのテーマを採用したのだが、予想は見事にはずれてしまった。結果としては、採餌に割く時間の割合にほとんど違いはなかった。しかし、採餌内容としては高順位メスが人口餌を多く利用していたのに対し、低順位メスは自然餌を多く利用していたことから、低順位メスが人口餌をまかれた場所から早々に退散し、自然餌を探すという採餌選択をおこなっていたことが分かった。最初はサルとの距離感がわからず、高順位オスに威嚇され追いかけられたり、逆に距離をとりすぎて見失ったりした。私の研究対象はイルカであり、海の中で1個体をずっと追うことは不可能なので、1頭のニホンザルを(見失わない限り)ずっと追いかける経験は貴重なものであった。
幸島では野生のサルの行動観察を行うこと以外にも、フィールドにて仲間と一緒に釜の飯を食うという極めて重要な経験もさせていただいた。悪天候の中、テントを立てたり…それでも面白く協力的なメンバーに囲まれていたため非常に楽しかった。
今後は、今回特に必要だと学んだフィールド調査における申請書の書き方や調査のための準備をはじめ、実習での経験を活かし、野生動物の研究に役立てたいと考えている。また、今回得た友人との仲をこれからも大切にし、お互い切磋琢磨していければと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



餌のまかれた付近で採餌できる
高順位メス



麦を一粒ずつ拾う
低順位メス

* 今回あまり写真をとれなかったので、他の参加者の写真も参考にしてほしい。

6. その他 (特記事項など)

今回の実習を行うにあたり、中村先生、杉浦先生、鈴木さんには大変熱心にご指導して下さったこと深く感謝しております。また、実習の開催に協力して下さった PWS にも感謝申し上げます。ありがとうございました。